

体操競技男子・女子共通

- 1, 採点間の練習は、競技会場の条件によって認めることもある。  
今年度、体操競技男子は認めない。  
体操競技女子予選の段違い平行棒・平均台は、チーム演技終了後に個人の練習を行う。
- 2, アリーナに入れる者は、次のとおりとする。

		リーダー	正選手	補欠選手	合計	監督
予選	チーム	1	4	1	8	—
	個人	0	2	0		0～2
決勝	チーム	1	4	1	6	—
	個人	1	4	0	5	0～3

- (1) 監督は、男女別学校ごとに各1名とする。
  - (2) チームリーダーは、原則として監督が当たることとする。ただし、
    - ア 予選では、事情により同じ都道府県の他の学校の監督又は補欠選手のうち1名が当たることができる。
    - イ 決勝におけるチームでは、事情により補欠選手のうち1名が当たることができる。
    - ウ 決勝における個人組では、関係監督相互の協議により、1名が当たることとする。
  - (3) 予選及び決勝でリーダーとならない監督は、選手の種目ごとの練習及び演技に当たって選手席に入場することができる。
  - (4) 同一校の男子と女子、又は、チームと個人が同一時間帯に競技するときは、監督はアリーナ内で移動することができる。
  - (5) チーム参加で予選通過した個人選手の決勝では、チーム選手の内の1名が前項の監督に代わって入場することができる。
  - (6) 女子ゆかの伴奏のために、上表のほか、チームでは補欠選手のうち1名が、個人では同校の参加選手又は他の参加選手の内の1名あるいは引率責任者が、ゆかの練習及び演技の時間に音楽席に入場することができる。
  - (7) 種目別選手権に出場する場合はリーダー1、選手1を追加する。
- 3, 成績順位及び表彰
- 次の場合は、成績順位及び表彰の対象としない。
- (1) 選手が演技すべき種目の全部を演技しなかった場合。ただし、不慮の事故等で種目の棄権があった場合、種目別選手権の表彰対象とする。
  - (2) チームが演技すべき種目のうち、演技者が3名未満である種目があった場合。  
ただし、
    - ア 0点は得点として認める。(棄権は得点なし。)
    - イ 競技開始後の棄権の場合にも所定の手続きを行った場合は0点とし、得点として認める。  
※所定の手続き(医師・審判長・競技責任者等の証明書)

4, 公開採点はしない。

5, 得点についてはD得点・E得点と最終得点を標示する。

6, 次の場合, 採点規則の「不規律な態度」と見なし, 下記の減点をする。

(1) ア 選手が学校を示す標識(マーク)を付けていなかった場合。

イ 異なる背番号を付けていた場合。

※当該演技の得点より0.30減点することとする。(1回のみD1審判が減点し, 審判長に報告する。その後の種目では減点せず, 審判長より未実施の種目のD1審判へその旨連絡する。)

(2) 申告した演技順(オーダー)と異なる順に演技した場合, 男子は当該選手の当該演技の得点から0.30を減点することとする。女子は当該種目のチーム得点より1.00減点する。

7 得点に対して抗議することは認められない。但しD得点への質問は、各種目ごとにD審判に行うことができる。